

【緑地を楽しむ本】

『でてきた でてきた はっぱのあかちゃん』

高柳芳恵 ぶん 松江利恵 え

月刊 かがくのとも 2020年1月号

福音館書店



たい、にこにこ顔です。

本書は、クルミの葉が枝から次々と落ち、そこに顔が増えていく様子、そして枝のてっぺんに帽子のようなものがついているところを見せてくれます。あったかそうな、かわいい帽子！ 冬芽です。実はこの中に、葉っ

夏の間あおあおと葉を茂らせていた木々も色づき、もう大方は葉を落としてきています。ふと気がつくと、一枚の葉がまた落ちたところ。すると、枝に顔のようなものが現れました。じ

ぱの赤ちゃんが眠っています。長い冬の間、北風が吹き抜け雨や雪が降っても大丈夫、葉っぱの赤ちゃんはこの暖かい帽子に守られているのですから。

冬芽は、クルミの木だけではありません。帽子が大きすぎるようなアオギリの冬芽、しなびた魔法使いのようなハリエンジュ、オオバベニガシワの冬芽は女王様の派手な王冠のようです。春になると、どの冬芽からも、葉っぱの赤ちゃんが顔を出します。大きく、の一ひのび！

今はまだ冬に入ったばかり、春までは間がありません。でも外に出たくないような寒い日でも、冬芽の中で葉っぱの赤ちゃんが眠っていると思うと不思議に心が温かくなりますね。

(小川)